Title	法学研究第六十巻 (昭和六十二年自一号至十二号) 総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1988
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.61, No.3 (1988. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19880328-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究 第六十巻 (昭和六十二年 自一号至十二号) 総目次

論 説

黎明会と福田徳三……………	一七	中村勝範
カール・ポパーの「社会科学の倫理」……………	一七	奈良和重
シャバ紛争の一考察……………	一七	小田英郎
廖仲愷の二度の訪日について……………	一七	山田辰雄
——一九二二・二三——		
国家——装置とその仕事……………	一七	根岸毅
総選挙にみる韓国政治の変化……………	一七	小此木政夫
——第一二回国會議員選挙の分析——		
孔子再評価に関する一考察……………	一七	林嘉言
エジプト・サダト政権初期の国内政治……………	一七	富田広士
——一九七〇～七三年——		
人種・エスニック関係研究とコンティンジェンシー・アプローチ……………	一七	関根政美
——マルチカルチュラル・オーストラリア研究序説——		
中国復興期における経済官僚制(一九四九―五二年)……………	一七	国分良成
——財政経済委員会を中心として——		
ECにおける「充分な信頼と信用」……………	一七	平良
——判決執行条約第二七条を中心として——		

号 頁 執筆者

経済犯罪について……………	二二	宮澤浩一
—西ドイツ連邦刑事警察局的資料を中心として—		
社会変動と大正デモクラシー……………	二四	中村勝範
統・近時判例における民法七二四条後段所定の二〇年期間の問題性	二五	内池慶四郎
—再審無罪判決、労災職業病、登記過誤その他関係事例—		
相隣関係における信義則の機能と限界……………	二七	新田敏
西ドイツにおける精神障害犯罪者に対する「精神病院収容処分」執行法に関する諸問題……………	二八	加藤久雄
弁済者一部代位の法構造……………	二九	斎藤和夫
—原債権者と一部代位者の競合関係、その利益較量的分析—		
明治七年司法省第一〇号布達の成立をめぐる若干の考察……………	三〇	霞信彦
余罪と量刑……………	三二	安富潔
—最高裁判所判決後の裁判例を中心として—		
結果的加重犯における結果帰属の限界についての覚書……………	三三	井田良
—強盗致死傷罪を中心として—		
公益法人の現状と課題……………	三六	兩宮孝子
財産管理制度と民法・信託法……………	三九	新井誠
—序説的素描—		
医療水準論に関する一考察……………	三五	橋本雄太郎
団体による不利益処分と救済の構造……………	三五	佐藤千春
—特にスポーツ団体と会員の関係を中心にして—		
ミユトス・グノーンズ・プロメテウス……………	三一	奈良和重
—E・トーピッチュとL・ヴェセルのイデオロギー批判—		
朝鮮金融組合政策と朝鮮農村社会……………	三六	片桐裕子
—「満洲国」における合作社政策と比較して—		
日露戦争後の日米経済関係……………	三七	木村昌人
—日米実業団相互訪問を中心として—		

強制力と比較優位……………	四一	田中宏
基本権体系の理念と要素(一)……………	四二	クラウス・シュテルン 田口精一
実親子関係の成立についての準拋法 —国際私法における法欠缺の場合—	五一	高鳥トシ子
基本権体系の理念と要素(二・完)……………	五三	クラウス・シュテルン 田口精一
香港協定とその国際法への影響……………	五五	ゲオルグ・レス 長田祐卓
鎌倉末・南北朝期における明法家達 ECにおける基本権保護と欧州人権条約機構……………	六一	利光三津夫
ビニール・ダイイの統治論……………	六三	庄司克宏
—公訟主義政治理論に関する考察—	六七	矢吹久
構造的差命令とその抑制の可能性……………	七一	大沢秀介
デュルケムの保守主義……………	七三	石川晃司
同調的平行行為と反トラスト法(一)……………	八一	田村次朗
康永二年祇園社締座相論考……………	八三	利光三津夫 吉田通子
—南北朝期使庁裁判の一例として—		
民法一六七条における債権一〇年時効制の立法史的意義とその現在の課題(一)……………	九一	内池慶四郎
同調的平行行為と反トラスト法(二・完)……………	九三	田村次朗
自首条の適用をめぐる若干の考察……………	一一	霞信彦
民法一六七条における債権一〇年時効制の立法史的意義とその現在の課題(二・完)……………	一一	内池慶四郎
明治四年・福島県川俣附近農民騒動裁判小考……………	一二	手塚豊
アメリカ合衆国における仲裁の法的性質に関する一考察……………	一四	西川理恵子
第一次日ソ国交樹立とソ連の交渉ストラテジー……………	一七	小澤治子

株式に関する商法改正試案管見……………	三九	阪 埜 光 男
— 大会社を念頭においた制度を中心として —		
株主総会の決議による取締役の解任……………	三七	米 津 昭 子
手形金額の記載における「文字」と「数字」……………	三五	倉 澤 康 一 郎
議決権行使の代理人資格を株主に限定する定款規定ある場合における株主でない弁護士による議決権代理行使……………	三六	加 藤 修
企業結合における会社債権者保護の法理……………	三七	宮 島 司
株主有限責任の原則の検討……………	三九	並 木 和 夫
— 過少資本の問題を中心として —		
有限会社の取締役の監視義務について……………	三三	山 本 爲 三 郎
アメリカに於ける喪失・盗難証券の報告・照会制度……………	三二	竹 中 正 明
「横すべり監査役」に関する若干の問題……………	三一	大 賀 祥 充
繰延資産につき包括規定を設けることの可否について……………	二九	近 藤 龍 司
特別利害関係株主の議決権行使と不当決議……………	二五	安 井 威 興
善意取得と取得行為の瑕疵……………	二三	黄 清 溪
— その効果を中心として —		
取締役組合論……………	二五	小 宮 山 宏 之
— 株式会社の業務執行権限に関する一考察 —		
監査役兼任禁止制度の問題点……………	二六	久 留 島 隆
為替手形の振出における当事者間の法律関係……………	二六	島 原 宏 明

資 料

フランス消費法典草案(消費法改造委員会案)……………	四	池 田 真 朗 氏 訳
----------------------------	---	-------------

二七六	株主の計算書類閲覧・謄抄本交付請求権と株主名簿閲覧・謄写請求権	七二〇	久留島 隆
二七七	正当の事由なく解任された取締役の会社に対する損害賠償請求	八二〇	米津 昭子
二七八	取締役の対第三者責任	九一〇	阪 埜 光 男
二七九	有限会社の株式会社への組織変更と会社に現存する純資産	一〇〇	加 藤 修
二八〇	商法三五〇条一項の株券提出期間経過後になされた未提出株券の交付による株式譲渡の効力	一三三	山 本 爲 三 郎
〔最高裁判事例研究〕			
二四九	昭二七・五・六第三小法廷判決・最高民集六卷五号四九〇頁	三二〇	河 村 好 彦
	昭二七・二〇	三二七	小 池 順 一
二五〇	昭二七・二一	四一三	田 中 ひとみ
	昭二七・二二	四二七	花 房 博 文
	昭二七・二二	四三三	山 田 恒 久
	昭二七・二二	四三三	山 田 恒 久
二五一	昭六一・一	五二七	山 田 恒 久
二五二	昭二七・二五	六二五	河 正 慶
二五三	昭六一・二	七二四	田 中 ひとみ
	昭二八・一	七二八	河 正 慶
二五四	昭二八・二	八二二	日 向 野 弘 毅
二五五	昭六一・四	九二四	伊 藤 敏 孝
	昭二八・三	九二九	田 中 ひとみ
二五六	昭二七・二二	一〇三三	日 向 野 弘 毅
	昭六一・三	一〇三六	宗 本 正 親 樹
二五七	昭二七・二一	一三六	河 正 慶

民事訴訟法研究会

紹介と批評

R・ビーン著『労使関係の国際比較』……………	三二	川合	金隆
三宅一郎著『政党支持の分析』……………	四七	小林	良彰
ハンナ・アレント著 寺島俊穂訳『ラーヘル・ファルンハーゲン―あるドイツ・ユダヤ女性の生涯』……………	五三	奈良	良重
ダグラス・ケルナー著『ヘルベルト・マルクーゼとマルクス主義の危機』……………	六一〇	奈良	良重
遠矢浩規著『利通暗殺―紀尾井町事件の基礎的研究―』……………	七三	笠原	英彦
小此木政夫著『朝鮮戦争―米国の介入過程―』……………	八二七	呉忠	根昇
寺崎修著『明治自由党の研究』上・下巻……………	九一三	長谷川	哲夫
石川明著『破産法』……………	九二〇	加藤	哲夫
手塚豊編著『近代日本史の新研究』V……………	九三三	石井	良助
ロバート・コフーン著『レイモン・アロン』第一・二巻……………	九三九	奈良	良重
利光三津夫編著『法史学の諸問題』……………	九三〇	武光	和誠
石川明著『民事法の諸問題』……………	九三三	中山	幸二

特別記事

平松茂雄氏学位請求論文審査報告……………	二八
加藤秀治郎氏学位請求論文審査報告……………	二五
所 功氏学位請求論文審査報告……………	二三
小林良彰氏学位請求論文審査報告……………	二六

藤山	宏君学位請求論文審査報告	十一
萬田悦生	君学位請求論文審査報告	十二